

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501233		
法人名	有限会社 エイチ・ティ・エス		
事業所名	グループホーム パストラル		
所在地	札幌市清田区平岡4条3丁目23-27 (電話) 011-887-5227		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 13年 7月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人、	非常勤 5人、 常勤換算 14.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:13,000円 暖房費:4,500円(11~3月)	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(2月 26日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	4 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.2 歳	最低	73 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科医院、河村歯科クリニック、じんば皮膚科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物は2年前に前の場所から新築移転されたもので、清潔でゆったりとしており、トイレや風呂、洗面所、手すりなども使いやすく造られている。男性職員が比較的多く、落ち着いた対応により利用者の安心感が感じられ、利用者同士も仲よく明るく朗らかに過ごしている。医師の往診体制が充実しており、受診結果や生活の様子を家族に適切に報告することで信頼度も高い。温泉旅行や花見など年間を通じた外出行事も豊富で、利用者が生き生きと行事に参加している。建物内にある英会話教室に児童が英会話を習いに来ており、現在交流はないが将来的には児童と利用者との交流の可能性も期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」について、職員が前回の外部評価を読み、意識してサービス向上に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを管理者が取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は複数の利用者家族が参加して開催しているが、年に1回程度しか開催できておらず、地域包括支援センターや地域の方の参加も得られていない。会議では運営報告のほか重度化した場合や急変時の対応などをテーマに意見交換している。今後は、地域住民や地域包括支援センターの方も参加しての概ね2ヶ月ごとの運営推進会議の開催と、運営推進会議を活かした地域との交流の活発化を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時や運営推進会議への参加時に家族の意見を聞いており、管理者も意見が言いやすいように普段から話しかけている。また、重要事項説明書に事業所および外部の苦情受付機関も明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の商店に利用者とはかかって顔見知りになったり、ホームの畑仕事に地域の方を誘って行っている。今後は運営推進会議を活用してより幅広く地域との交流を深める方針としている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念を定めているが、地域との交流や関わり合いについては盛り込まれていない。全体的に硬い言葉と文章の多さにより、覚えるのは難しくなっている。		職員で話し合っって事業所独自の理念または目標を作り、その中に地域との関わり合いについても盛り込まれるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの玄関に掲示しており、職員間で共有している。職員は理念に沿って、季節を感じられる食事の提供など、項目を意識してサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の商店に利用者とは出かけて顔見知りになったり、ホームの畑仕事に地域の方を誘って行っている。今後は運営推進会議を活用してより幅広く地域との交流を深める方針としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを管理者が取りまとめている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても、職員が前回の外部評価を読み、意識してサービス向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は複数の利用者家族が参加して開催しているが、年に1回程度しか開催できておらず、地域包括支援センターや地域の方の参加も得られていない。会議では運営報告のほか重度化した場合や急変時の対応などをテーマに意見交換している。</p>		<p>地域住民や地域包括支援センターの方も参加しているの概ね2ヶ月ごとの運営推進会議の開催と、運営推進会議を活かした地域との交流の活発化を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>スプリンクラーの設置や消防法の関連、その他の手続きについて市の担当者に相談している。また、区の生活保護課の訪問を受けたり、事業所のパンフレットを区役所に持参している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の状況を報告している。また、ホーム便りを毎月作成し、写真や個人ごとのコメントを添えて家族に送付している。ホーム便りの中で職員紹介も行っており、金銭出納報告もホーム便りと同時に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議への参加時に家族の意見を聞いており、管理者も意見が言いやすいように普段から話しかけている。また、重要事項説明書に事業所および外部の苦情受付機関も明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職は最小限となるよう管理者が職員の悩みや話を聞くようにしており、離職がある場合でも利用者のダメージを考え、辞める理由を少し変えて伝えるなど利用者の心配を緩和している。ダメージが見込まれる場合は職員全体でカバーしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市などが主催する外部研修に職員を参加させているが、職員によって参加度合いに差があり、研修後の報告会も十分に行われていない。また、内部研修を行っているが、以前より頻度が減少している。		全ての職員が計画的に外部の研修に参加できるようにし、研修参加後の報告会の実施も期待したい。また社内研修や社内勉強会の充実も期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区のグループホーム管理者連絡会に参加しており、同業者と交流する機会を持っている。また、職員も同じくグループホーム管理者連絡会の職員研修に参加しており、グループ討議などの場面で他のグループホームの職員と交流機会を持っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は利用開始前になるべくホームを見学に訪れ、納得して利用を決めている。見学が難しい場合は管理者が利用予定者を訪問し、事前に馴染みの関係を築いている。利用開始後も職員が他の利用者との関係を取り持つなどして早く馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者の普段の会話から昔の知恵を学ばせてもらったり、テレビを見ながら昔の話を教えてくれる。また、食事の際に「おいしかったよ」と褒めてくれたり、夜勤時や介助の際に「すまないね」「ありがとう」などの感謝の言葉を掛けてくれる場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表すのが困難な場合も表情や行動パターンなどを職員間で情報共有し、意向を把握できている。また、利用開始時にセンター方式のアセスメントシートを作成して生活歴や嗜好などの情報を把握しており、後から得られた情報も追加している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期計画は診療情報や家族からの情報を基にアセスメント表を作り、利用者、家族の意向を盛り込んで介護計画を作成している。課題などはカンファレンスに諮り、職員の意見やアイデアなども取り入れて完成させた計画書を家族に確認し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、6ヶ月ごとにアセスメントを行うとともに更新計画を作成している。入退院時や急激な体調の変化が生じた場合は、主治医の意見や家族とも話し合い新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>主治医の紹介で他科受診をする際には職員が同行している。買い物や理美容などの希望がある時は、個別の事情に沿って柔軟に対応している。家族の希望があれば宿泊ができるように寝具類を準備している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望に沿い入居前のかかりつけ医の受診を継続している。協力医療機関の、2週に1回の内科往診、週1回の歯科往診、治療対象者があれば月に1回の皮膚科往診があり、それぞれの主治医と連携している。他科受診の際には職員が同行し、受診結果は家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者の病状が重度化した際、主治医からの説明に職員も同席し方針を確認している。重度化に対応する事業所の方針を定めて、点滴など医療行為が発生する時は対応が難しいことを全員の家族に説明しているが口頭での確認になっている。</p>		<p>事業所の重度化に対しての方針をできるだけ文章化し、入居の段階に文書で同意を得るとともに、状態の変化に応じて方針を再確認するような取り組みに期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者を尊重し、誇りを傷つけないように配慮している。排泄時には他者に聞こえないように声をかけ、また個人的なことは居室で聞くようにしている。個人情報などの書類は適切に保管しており、面会簿の取り扱いもプライバシーを考慮検討しているところである。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床、就寝時間は利用者のペースに合わせている。食事を食べたくない利用者には時間帯を見て無理強いをしない、またゆっくり入浴したい利用者には時間をかけて見守るなど、その人の思いに沿って対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を献立に取り入れ、誕生日には本人が好む食事を提供している。利用者は身体能力に応じて下膳し、茶わん洗いや拭くなどの後片付けに参加している。職員は食事介助をしているが利用者と一緒に同じ食事はとっていない。		食事を介助する中でも、職員が一人でも利用者と一緒に同じ食事をとり、生活の中心にある食事がより楽しめるような工夫に期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を決めているが、時間的なこともあり実質的には入浴日は多くなっている。最低でも週2回は入浴できるように支援し、体調を見てシャワー浴や清拭、足浴、洗髪なども行っている。順番や時間帯は希望を聞きながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、新聞たたみ、おしぼり作り、床掃除、カーテンの開閉など、役割として利用者は積極的に行っている。トランプ、花札、オセロなどを日常的に楽しみ、一泊の温泉旅行、花見、ボーリングなどに出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には毎日のように外出している。近くの公園を散歩する、大型店舗に車で出かける、バイクや寿司食の外出を楽しむ、畑の野菜や花を見て外気に触れるなど、天候や体調を見て支援している。冬季には事業所内の階段昇降や廊下などで運動をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関が車道に面しており、1～2時間位は開けているが安全面、防犯の面から玄関の内側の自動ドアを施錠している。しかし中からボタンを押して開けることは可能である。また、センサーを取り付け外出を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火設備などは定期的に点検しており、119番専用の電話を設置し緊急時に備えている。昨年 of 外部評価で課題にしていた「避難訓練の実施や近隣との災害時の協力体制」について検討はしているが実現にまで至っていない。</p>		<p>災害時の避難場所の確保や災害時の地域との協力作り制作りを具体的に進め、消防署指導の下で、早急に避難訓練の実施を期待したい。また、職員の定期的な救急救命法の受講をするなどの訓練が望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量は1,000ccを目標に、食事は残食を入れて全員を記録し過不足を調整している。職員は主治医のアドバイスを参考に栄養バランスに配慮して食事を提供している。年に1回は協力施設の管理栄養士に献立表をチェックしてもらうことを検討している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木造づくりの共用空間は温かみがあり、窓を多く取り入れているので開放感がある。生活導線の分かりやすい造りで、居間はユニットごとにテーブル、ソファの配置が工夫されており、居心地よく過ごせるように配慮されている。壁には行事の写真や季節のものが飾ってある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはテーブル、籐椅子などの家具類に、仏壇、テレビ、加湿器などが持ち込まれている。家族の写真を飾り、縫いぐるみなどが置かれており、また至る所に好きなポスターなどを貼り、観葉植物の花を育てるなど、楽しく過ごせるような居室作りも見られた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。